# 福井県支部便り（辟雍会通信第６号）

## 再任用短時間勤務

吉田和美（Ａ類国語）１９８３年３月卒

辟雍会福井県支部会員の吉田和美です。コロナ感染症対策という前例のない対応や学校運営に明け暮れた教員生活最後の１年でした。

この４月から私が選択した第２の人生は、再任用短時間勤務。週３日働くというものです。一日は初任者指導、二日は通級指導と、これまで経験のない職務です。初めは戸惑うことや不安もありましたが、周りの先生方に助けられ、子どもたちにも助けられの日々です。「やっぱり学校っていいなあ。」、「子どもっていいなあ。」と改めて感じています。そして平日に休みがある楽しさも味わっています。これまでできなかったスポーツジムにも通い始め、汗を流すことの喜びを感じています。

退職後教員としてフェードアウトしていくには再任用短時間勤務はとても良かったと思います。しかし次年度からは、再任用短時間勤務はなくなるとのこと。さあ、第二の人生をどうして過ごすのか、今の私の課題です。

## 「人脈の網　大きく育って」

宮崎翔央（Ｋ類アジア研究専攻）２００８年３月卒

勤務先：福井新聞社編集局報道部

「東京五輪チケットを持つ福井県民の反応を取れ」。首都圏会場の無観客開催が決まった今年７月８日。地方新聞社でスポーツ担当記者をしている私に上司から指示が降りた。真っ先に思い浮かべたのが辟雍会福井県支部。体育系教諭ＯＢがそろうメンバーならきっと、五輪に興味を持っているはずー。的中。夢のチケットが台なしになる複雑な心境を語ってもらった。

情報をもらうのは今回が初めてではなかった。既に頼れる〝ネタ元〟の一つになっている。例えば陸上関係。各種大会を取り仕切る県陸上競技協会（福井陸協）役員に学芸大出身の体育教諭が多くいるから、何度も助けられている。「いつか大きなスクープを…」とこっそり狙っている。

ところで、辟雍会ネットワークを活用している卒業生はどれほどいるのだろう。一定のブランド力を誇る教育界を除いた世界でだ。私は仕事柄、２年前に県支部立ち上げに関わり、総会を取材したことで仲間入りした。弊社内の卒業生は私だけ。それまで関係性は皆無だったのだ。

総会で残念なことがあった。参加者は現役・元教諭が占め、他業界の人はほぼいなかった。私が取材で生かしているように、多くの卒業生がこの人脈の網に結びつき、仕事や私生活で活用してほしい。県支部の５年後、１０年後の総会は、バラエティーに富む人材が酒を酌み交わす場であることを願う。微力ながらお手伝いしたい。

（編集後記）今号は、上記のお二人からコメントをいただきました。全国の緊急事態宣言とまん延防止等重措置が解除され、新規感染者数が減少してはきていますが、ウイズコロナです。どうぞ十分ご自愛ください。（支部事務担当：小林弥寿夫）